

会 議 録

会議の名称	第8期 第7回 小金井市地域自立支援協議会 全体会
事務局	福祉保健部 自立生活支援課、小金井市障害者地域自立生活支援センター
開催日時	令和5年3月22日(水) 午後5時00分から午後6時00分まで
開催場所	小金井市役所第二庁舎 801 会議室
出席者	<p>【委員】 加瀬 進委員、吉岡 博之委員、石塚 勝敏委員、小根澤 裕子委員、渡邊 誉浩委員、鴻丸 恵美子委員、加藤 了教委員、荒井 康善委員、佐々木 宣子委員、畑 佐枝子委員、木下 一美委員、宮井 敏晴委員、中村 裕子委員</p> <p>〈WEBによる参加〉 高橋 徹委員、猿渡 太育委員、田中 麻子委員、佐々木 由佳委員、永末 美幸委員</p> <p>【事務局】 自立生活支援課課長 自立生活支援課相談支援係係長 株式会社名豊担当者 小金井市障害者地域自立生活支援センター</p>
会議内容	第8期 第7回 小金井市地域自立支援協議会 全体会のおり

(事務局)

事務局です。本日は障害者計画策定のためのアンケート調査報告書にかかる協議のため、急遽お集まりいただきましてありがとうございます。開会前に事務局より連絡がございます。新型コロナウイルス感染防止対策に関しまして、国では3月13日からマスクの着用等個人の判断とされたところがございます。アクリル板は、本日から外した形となっておりますが、引き続き感染再拡大防止の観点から、Webと対面の併用ということを継続させていただいておりますので、どうぞご協力をお願いいたします。

また本日もアンケート調査の結果報告書の説明員として、障害者計画策定委託の受託者である名豊さんに出席をしていただいております。連絡事項は以上となります。

(会長)

今年度最後、臨時ですけれども、第7回小金井市地域自立支援協議会を開催したいと思っております。アンケート調査報告書は今日で最後ということになりますので、よろしくをお願いいたします。それから今日、差別解消委員会がこの後にありますので、最大でも1時間ということでご協力をお願いできればと思います。それでは欠席委員等について事務局からお願いいたします。

(事務局)

丸山委員と八木委員から欠席の連絡を頂いております。高橋委員、佐々木由佳委員、猿渡委員、田中委員、永末委員。以上の委員がWeb参加となります。小金井市地域自立支援協議会設置要綱第6条第2項の規定により、協議会の開催は半数以上の出席が必要となりますが、21人中19人の出席がありますので、会議が成立することを報告いたします。以上です。

(会長)

ありがとうございました。では、資料の確認をお願いいたします。

(事務局)

本日配布している資料は、小金井市保健福祉総合計画(障害者計画・障害福祉計画)策定のためのアンケート調査報告書の一点になります。事前にメールで送付した後に追加した部分がありますので、ご自身で印刷してご用意したものがありませんでしたら間違いのないよう、本日机前にお配りしたものをご覧いただきたいと思っております。以上です。

(会長)

一点確認ですけれども、Web参加の場合は追加のものも届いていて、それを読んで頂くということですか。

(事務局)

追加の資料もメールで送ってあります。郵送が間に合わなかったため、メールだけで配信させていただいております。

(会長)

Web参加の委員は見にくいことがあると思いますが、どうぞよろしくをお願いいたします。次に事務局のほうから説明をお願いいたします。

(事務局)

では、本日配布した資料をごらんください。資料の中で、クロス集計している項目については、前回の協議会で、名豊さんから説明があった項目、協議会の中で、鴻丸委員、佐々木宣子委員、畑委員から出された意見を反映した項目、またその後、本日までの間に事務局に寄せられた意見として、高橋委員からの意見を反映させた項目となっております。前回、整理させていただいたとおり、項目についてはこれで変更はできない形となっております。本日、確認していただくのは、ページ構成を変えない範囲でできる、コメントの修正に関する内容として、記載されている文言や言い回しが適切であるか、数字から見える傾向として、特徴が的確に示されているか。といった点でございます。

なお、委員の皆様へ事前送付した後に、事務局から名豊さんへ、一部修正を依頼し、コメントの内容や、クロス集計表の特徴的な数字の見せ方などを変更しておりますので、本日配布した、最新版の資料に基づきまして、名豊さんから説明をしていただきます。

(名豊)

どうぞよろしくお願ひします。それでは本日、机上に配布したものとメールで送っていただいたものに基づいて、マーカーの付いた所を説明させていただきます。

1頁をご覧ください。調査の概要としまして、前回の会議の際の速報値の際に、報告させていただいた内容につきまして、調査目的・調査対象・調査期間・調査方法等を記載しております。回収状況につきましては、配布物有効回答数・有効回答率が確定という形になります。

今回、追加したものにつきまして、6番の調査結果の表示方法につきましては。前回の会議で、速報値の単純集計のグラフを見ていただいた際にも説明させていただきましたが、1つに○と、回答を制限するものにつきましては、1人につき1つまでの回答ができるということになりますので、本来なら100%になるという形が正しいですが、四捨五入の関係で100%を超える場合もあることを記載しております。

また、複数回答につきましては、回答者におきまして、2つ回答されている方もいれば、全ての選択肢に回答されている方もおりますので、合計すると100%を超える場合があります。更に今回追加したところが3つ目の中黒です。クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがありますと記載をしております。例えば障害種別におきましては、どの手帳を持っていますか。というふうに回答をいただく間で、無回答につきましては、クロス集計をした際に排除しておりますので、全ての回答を合計しても全体の集計よりは少なくなりますので、そこは間違いではないということを書いています。

さらに4つ目の中黒につきましてはグラフではなくてクロス集計表につきましては、横方向に見まして、一番高い割合について網掛けをしています。こちらで一番高い項目については数字がわかるようにしております。

5つ目の中黒につきましては、回答者数が一桁の場合、回答件数による表記として記載をしております。こちらについては、例えば回答者数が9件であるということにつきましては、1人の回答の影響度が、1人増えると10%増えることになってしまいますので、そうなると、%での傾向の分析が難しいというふうに判断しまして、何件という表記にしております。

2頁から調査結果になりますが、回答者数につきましては、すべて確定値の数字となっておりまして、数字自体は前回の会議で配布させて頂きましたものと変わりはありませんので、2頁以降につきまして特に、黄色のマーカーをさせて頂いた変更箇所につきまして、説明させていただきます。

最初の変更箇所は21頁をご覧ください。仕事はしていない方の割合について回答者数515件の中で「小学生」、「中学生」、「高校生」、「その他」ということで聞いている項目ですが、コメントで「学生」の割合は0.8%となっています。」という部分の表現をその他以外の一つだけとしておりました。ただ、「小学生」、「中学生」、「高校生」という所を見ますと「小学生」でも0.6%、「高校生」0.2%と回答を頂いておりましたので、少ない割合であってもこの部分は指摘をした方が良いのではないかと思いますので、「小学生」の割合が0.6%、「高校生」の割合が0.2%、「学生」の割合が0.8%となっています。」という表記に訂正しております。

次に26頁です。問8-1、「サービスを利用中の方におたずねします。障がい福祉サービスについて不足に感じる事、又は不満に思うことがありますか。」という問いです。「特にない」の割合が37.1%と最も高く、続いて「利用回数・時間などに制限がある」という表記をしておりました。

ただ、「特にない」が最も高いのですが、そこが一番高くなっていますという表現について、少し読み手に違和感を与えてしまうのではないかとということで、他にも同様の箇所がありますが、「特にない」ということが最も高くなっていた場合については、「なっていますが、」という言葉を入れて、少し読みやすいように訂正しております。

次に30頁です。問10、「医療機関について困っていることは何ですか。」という設問で、「特に困っていない」という項目が一番高く出ておりますので、「なっていますが、」と訂正をしています。

次に38頁です。問16、「相談しやすい体制を作るためには、どのようなことが必要だと思いますか、」と設問している中で、【障がい種別】のコメント部分について、記載を変更しております。こちらの障がい種別におきましては全体集計との差が5ポイント以上の中から、特にコメントの量もありますので、特にこう指摘をした方がいいのではないかと、という所を選んでコメントをさせて頂いておりますが、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「自分の話を聞いてもらいながら、ゆっくりと時間をかけて相談できること」また、「ちょっとしたことでも相談に応じてくれること」ということが、特に施策に繋げていく観点からすると、もともと記載していた項目よりは適しているのではないかとということで、指摘するコメントを変更しております。

次に42頁です。問19で、もともとは「特にないという割合が44.3%と最も高くなっていますが、」という表示自体が記載されておりました。「身近な公園や歩道のベンチなど、休憩できる場所が少ない」の割合が15.6%で最も高く」と表記されておりましたが、他の設問との整合性の観点から、「特にない」の割合が最も高くなっていますが、」というように、修正した内容と同じ表現に改めております。

次に44頁の問21、「あなたは現在働いていますか（施設を含む）。」とあります。こちらについては障がい種別のコメントを修正しております。「障がい種別に見ると、他に比べ、愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者で「働いている」の割合が高くなっています。」と記載しております。以前は、身体障害者手帳所持者において「働いていない」という項目の割合が高くなっていることを記載しておりましたが、

こちらの説明については、働いている方が多いということは、働いていない方は自ずと少なくなるのが分かるのではということがありまして、特に、「働いている」ことに関する傾向が重要ではと考え、愛の手帳所持者と精神障害者保健福祉手帳者で「働いている」が多いということについて記載しております。

次に46頁です。問24で「勤務先へ障がいや病気であることを伝えてありますか。」と質問しております。こちらについても精神障害者保健福祉手帳所持者で「伝えていない」の割合が16.5%と、他と比べ高くなっています。こちらにつきましても、全体との比較になりますと、「伝えていない」という項目が全体では20.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者で16.5%ということで、5%以上の差は見られていない項目にはなりますが、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者と比べると16.5%と高くなっているため、5%以上の差があるわけではありませんが指摘をした方が良いでしょうと考え、コメントをさせて頂いております。

次に47頁です。問25、「仕事をする上で不安や不満を感じることはありますか。」と聞いております。「特にない」の割合が40.4%と最も高くなっていますが、と修正をしております。

次に52頁です。問29、「あなたは今後「働く場」として、どのようなところを希望されますか。」と質問しております。こちらの障がい種別のコメントを一部、見直ししております。見直しした部分については、「愛の手帳所持者で「日々の生活を充実させるために軽作業をする施設」の割合が、」を追加しております。こちらについては記載していませんでしたが、確かに「日々の生活を充実させるために軽作業する施設」につきましても、全体が4.6%に対し、愛の手帳所持者については15.0%と差が見られておりますので、その点について記載をしております。

次に53頁です。問30、「あなたは現在、幼稚園・保育所・学校に通園・通学していますか。」と質問しております。こちらの障がい種別につきましても、コメントを見直ししております。こちらについても、もともとは精神障害者福祉手帳所持者で「していない」という項目の割合について記載をしております。その理由として、全体が71.5%に対し、5ポイント以上の差という観点から見ると、精神障害者保健福祉手帳所持者がそれに該当するという点でコメントをしております。ただ、障がい種別で比較をしますと、身体障害者手帳所持者についても72.3%と高くなっており、コメントに身体障害者手帳所持者を加えております。

次に55頁です。問30-2、「幼稚園・保育所・学校などに通っていて困っていることは何ですか。」と聞いています。こちらでも「特にない」が最も高くなっていますので、「最も高くなっていますが、」というようにコメントを訂正しております。

次に56頁と57頁です。問30-3、「今後どのような進路を希望しますか。」という設問のクロス集計が57頁にあります。障がい種別のコメントを一部修正しております。黄色くなっているところについてですが、「身体障害者手帳所持者で「企業等で一般就労したい」の割合が、」という所を追加しております。こちらにつきましても、確かに「企業等で一般就労したい」という方については38.0%と、身体障害者手帳所持者については全体に比べて5ポイント以上の差がありますので、追加しております。

次に61頁と62頁です。問35、「災害が起きたときに、あなたやあなたの家族が避難所で配慮してほしいことはありますか。」と聞いております。こちらのクロス集計を62頁に記載しており、コメントを一部修正しております。「愛の手帳所持者で「間仕切りの設置など、プライバシーに関する配慮」の部分を追加しております。

こちらを見ますと、全体の集計が57.4%に対し、愛の手帳所持者については67.0%と高くなっておりまして、避難所での支援という形で特徴的な内容になっておりますので、コメントを追加しております。

次に73頁です。問43、「市内で生活している中で、「これは差別している」「差別された」と感じた経験がありますか。」と聞いております。こちらの障がい種別のクロス集計のコメントを訂正しております。こちらについてももとは、「身体障害者手帳所持者で「ない」の割合が高くなっています」と表現しておりました。その理由としては、「ない」の全体の割合が57.2%に対し、身体障害者手帳保持者で64.0%と、5ポイント以上の差があるためです。ただ、身体障害者手帳所持者・愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者の比較をすると、精神障害者保健福祉手帳所持者でも45.9%になっており、高いと言えるのではないかとということで、精神障害者福祉手帳で「ない」の割合が高くなっていることを追加しております。

次に81頁、82頁です。問53、「障がいのある人にとって暮らしよいまちづくりのためには、どのようなことが必要だと考えますか。」と聞いております。82頁の中で障がい種別を記載しておりまして、そのコメントを一部訂正しております。「精神障害者保健福祉手帳所持者で「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」「障がいのある人の権利を守るための制度の充実」の割合が、」という所を、追加しております。こちらにつきましては、確かに「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」については全体が20.8%であるのに対し、精神障害者保健福祉手帳所持者につきましては29.7%と、5ポイント以上の差がありまして、特に施策につながっていく部分ではないかと判断し、追加しております。

83頁から関係団体になります。

83頁の問3につきましては、こちらも「「特にない」の割合が、」という記載が最初にありますので、「なっていますが、」と改めております。

85頁、86頁におきましては、冒頭にお話させて頂いた有効回答数が10件未満。例えば、85頁の問5-1につきましては、回答数が4件になりますので、「「役員が対応」が3件、「適切な専門機関が対応」が2件」とコメントしております。また、同様に86頁の問5-2、「この3年間の差別に関する相談は何件ありましたか。」という質問ですが、回答者数が4件になりますので、件数表示でのコメントをしております。

次に87頁の問6-1です。「虐待に関する相談に関して、どのように対応していますか。」という問いについて回答者数が1件なので、件数表記にしております。

次に問6-3です。「この3年間の虐待に関する相談の件ありましたか。」についてはこちらも回答者数が1件です。また、「3年間では無かった」という言い方にした方が良いのかどうかということについては、アンケートについては正しいのですが、少し分かりにくいだろうということで、「ありませんでした。」と表記しております。

90頁から事業所の調査になります。

97頁の問8-1、「差別に関する相談に関してどのように対応していますか。」という質問については回答者数が2件であることを記載しております。

98頁の問9-1と問9-2につきましても、回答者数が7件になりますので、件数表示のコメントに改めております。

103頁からが、一般市民の回答になっています。修正箇所につきましては106頁をご覧ください。福祉の関心度別のコメントを見直しております。「非常に関心がある、ある程度関心があるで「聞いたことがある」の割合が高くなっています。」と、

両方とも加えたコメントが傾向の分析として適切ではないかということで、そのように纏めた表現に直しております。

続きまして、クロス集計を一つ追加したものがございます。123頁の間13をご覧ください。「あなたは個人として障がいのある方に次のような支援・手助けをしたことがありますか。」と質問しております。こちらにつきましては、委員から福祉の関心度別の集計をかけてはどうかというご提案を頂きました。そちらの集計を追加した内容が、126頁でございます。支援した内容が、「公共交通機関等で席を譲った」から「特に支援・手助けをしたことはない」という回答までを、福祉の関心度について、非常に関心があるから全く関心がないところまで、クロス集計を行ったものです。こちらの集計を加えたものと、またコメントについても記載を追加しております。「福祉の関心度別にみると、他に比べ、非常に関心があるで「メモや筆談で話を聞いたり、情報提供行ったりした。」「代筆したり、文字情報読み上げてあげたりした。」の割合が、非常に関心がある、ある程度関心があるで「公共交通機関等で席を譲った」の割合が高くなっています。」と記載を追加しております。

説明は以上でございます。

(会長)

限られた時間ですので、まずは名豊さんの説明についての質問ということでお願いしたいと思います。伺っていると、大きく4種類あるのかな、と思います。「特にない」が一番高いが、しかし、それ以外のところもあるという説明にしたということと、網掛けが出来たのでかえってわかりやすかったと思うのですが、網掛けの所で一番高い、という説明と、網掛けの所が一番高いけど、他の所も注目すると大事な所があるかと思えます。この混在が混乱しないかな、と若干思いますが。それから、回答数が10件未満の場合には%ではなくて件数で表したということ。クロス集計を126頁に追加していただいたのがありますけれども、その4パターンだったかなと思います。これについてはあまり時間が取れません。と申しますのも、この後、事務局でチェックしてもらった所も共有しながら、と思えますので。まずは名豊さんの設問。黄色の網掛けの部分について、ご意見をいただければと思います。

(副会長)

このような報告書を出す際は、今までこの障害者計画・障害福祉計画では概要の使い方に関して、例えば目次等に注意書き等を入れていたと思います。法令用語で障害者という漢字を使っており、それ以外の場合はひらがな表記しているという。今までもあったような気がしますが、そういうことを付け加えることは可能なのでしょうか。

(会長)

今まででも、自立支援協議会の中で、「害」「がい」の字をどうするのかということを出てきたテーマだと思います。前例があるかどうかは別にして、制度名の場合は変えられないので、制度名のままです。しかし、自立支援協議会としては、文言として使うときには、障がい者の「がい」を平仮名にしようということが、この協議会での共通理解だったと思います。ただ、協議会の中での共通理解が、これを見る人たちに分かるかということ、分からない可能性も高いので一言、注意書きを、例えば目次の右側に空欄があるので、そこに入れてもいいのでは、というのが、副会長のご提案だと思います。

(事務局)

事務局です。冊子になるときに障害者計画以外の全部含めた形になるので、案としては、その全体の中で図表の見方みたいな説明をしている所があるので、そこに入れるか、あるいは障害者計画の所に頁が入る所。どちらの方が見やすいのか、ということになりますが、ご意見はございますか。

(会長)

障害者計画の所でいいのかなと思いますが、若干懸念されるのは、他の計画のところでは使い分けが出来ているのか。他のところで使い分けが出来ていないかも。とすると、そちらの方の計画は大丈夫なのかな、と思います。

(名豊)

統一が図られることが非常に重要だと思います。地域福祉の調査もありますので、調査票の選択肢を全て把握しているわけではありませんが、おそらくは出てくると思われますので、そちらについて、「障害者」という制度や法律の名前なのか、「障がい者」という表現なのか、ということになりますが、そこについては統一を図っていなければおかしいことであります。そこは、他の調査も弊社の方から送信させて頂いていますので、合わせていきたいと考えています。

お手元にある報告書の1頁の回収状況であるとか、調査の表示方法については全て1冊となる報告書になりますので、共通して最初に、第1章みたいな形で全て4種類の調査がありますが、まとめた形で記載をしたいと思いますので、全ての報告については100%にならないとクロス集計する際は無回答を省いて集計しているとか、網掛けが一番多い項目にしているというのは、共通して冊子として統一していきたいと思っています。障がいの部分については地域福祉でも必ず出てくるので、冒頭で述べて、更に中でも述べるかということも。

(事務局)

前回と同じスタイルになるか分かりませんが、前回のものを見ると計画が分かれたところではすでに、数字とグラフの頁から始まっていて、注意書きが何もないと言いますか、入れる場所がないのでは、と思いましたので、その辺は全体ができた時に、入れる場所があるかどうかということ踏まえながら対応をさせて頂きたいと思いません。

(会長)

このことについては名豊さんと事務局に預らせて頂いて、趣旨を踏まえて統一して頂くということをご理解いただきたいと思います。もとに戻りまして、今日、名豊さんに説明を頂いたところについてはいかがでしょうか。

(委員)

例えば障がい種別についてです。46頁ですが、「その他」という障がい種別は、回答者が私はこういうような障がいがあるという記入があるのか、あるいは「その他」ということで、ここに入ってないから「その他」にしているのか。回答する人がどのように書いていらっしゃるのかについてお伺いします。

(名豊)

報告書の7頁の間1をご覧くださいませでしょうか。お持ちの手帳または受けている診断名等についてお答えくださいという問の集計結果を、三障害とその他という形で集計をしておりますので、その他については自立支援医療を受給している方、発達障害の診断を受けている方、高次脳機能障がい診断を受ける方、難病の診断を受けている方、認知症疾患の診断を受けている方という形でまとめております。

こちらについては、前回調査との比較という観点がありまして、前回の調査と同じ区分での集計をしております。

(委員)

そうすると、例えば発達障害の診断を受けているということとその他ということと、特に回答者側は発達障害というふうには書いてないけど、ということなののでしょうか。あるいは書いているのでしょうか。

(名豊)

7頁の間1で、発達障害診断を受ける方については6.8%と頂いております。報告書自体は今回集計しておりませんが、来年度についてはこちらの回答について、詳しく集計を見たいということであれば、弊社で集計ができますので、ご依頼いただければ、データを作れると思います。

(会長)

その他はいかがでしょうか。もしよろしければ事務局にチェックしていただいた部分もご報告いただいた上で、と思っておりますが、よろしいでしょうか。

(事務局)

事前に名豊さんに依頼をして解決済みの部分もあるので、説明が重複してしまったら申し訳ございません。

まず44頁です。もともと、身体障がい者で「働いていない」が多いということが書いてあったのが、先ほど、「働いている」が多いことだけを書けば、他は「働いていない」が多いということがわかるはずという説明があったところです。「働いている」と「働いていない」という比較というのが当然ありますが、ほぼ同数ということも想定するとなると、逆に「働いていない」ということが多かったというも特徴として残っていた方がわかりやすいのかなと思えました。

次に68頁です。精神障害者保健福祉手帳所持者について、「一緒に参加する友人や仲間がいない」ということと、「健康状態や体力に不安があるということ」について特徴があるのかなと思っています。恐らく先ほどの説明ですと全体との割合のところ、5ポイント以上の差があるものを特徴として拾っているということなので、その条件からは外れると思いますが、精神障がいの方の特徴を横で見えたとときには、こういった課題があるのかなというのが特徴になるのかな、と私は感じました。

次に82頁です。こちらは身体障がい者の特徴についてですが、「災害の時の避難誘導体制の整備」、それから「公共交通や道路、公共施設等のバリアフリー化」、こちらも先ほどと同様に全体の割合とは5ポイント以上の差がないから、ということかもしれませんが、横で見えたと時には特徴的なのかなと思えました。

次に86頁の間5-2です。「4件」が2件、「0件」、「1件」が1件」となっています。」ということで、先ほどの説明を聞きますと回答が少ないから、%ではなく、件数で表記ということですが、これを例えば、視覚障害のある方が音声で聞いたときに、「4件」が2件、「0件」、「1件」が1件」となると分かりにくいのでは、と気になったところですので、例えば「4件」という回答が2件で50%でした。」というように、件数と%の両方があった方がいいかなと思いました。

同じようなことが85頁と98頁でもありますが、こちらについては回答の内容が記されているため分かるかなと思います。特にこの間5-2については、回答そのものが「0件」というふうになっているので、なおさら紛らわしいかなと思いました。

次に87頁です。こちらはもともと、「0」が1件となっています。」となっていて分かりにくいということで、「この3年間ではありませんでした。」と追記していただいたのですが、文章として2つに分けるよりも「0件」が1件となっており、この3年間ではありませんでした。」というような形で1つの文章の方が、見た方には伝わりやすいのかなと思いました。

次に97頁です。こちらにも伝わりやすさについてですが、「回答があった「スタッフが対応」が2件となっています。」とありますが、数字を前に持ってきて、「回答があった2件とも「スタッフが対応」となっています。」という形の方が伝わりやすいかなと思いました。

次に122頁です。あまり関心がない、全く関心がないで、「障害の状況や程度に合わせて、専門的な保育教育を受ける方がよい」の割合が高くなっていることと、ある程度関心があるで「障害の有無に関わらず、できるだけ一緒に過ごせるのがよい」の割合が高くなっていることが記載されていますが、後段の部分について。「ある程度関心がある」の前、または後ろに「非常に関心がある」も加えた方が良いのかなと思います。「関心があるグループ」と「関心がないグループ」とで回答に差が出ていることが特徴だと思うので、それを加えた方が良いのかなと感じました。

事務局で気になっているところは以上になります。

(会長)

これも大きくは2つに別れるということでしょうか。件数で表記している所の表記の仕方というか、説明の仕方をどうしたら分かりやすくできるか、というのが一点と、もう一つ、これは名豊さんの意見が重要かなと思いますが、横で見た時、又は縦で見た時ってあたりのところが、アンケートの報告書なので、統計的な面と分かりやすさの面と両方必要かと思うのですが、その点について、名豊さんとしてはいかがでしょうか。

(名豊)

クロス集計の分析コメントの考え方については、やはり読み物として基準という所を持ちながら、読み方が途中で変わらないっていうのが、読み手への配慮だと思っております。弊社としましては、1頁に調査結果の表示方法というのがございます。

先に説明していなかったのですが、3つ目の中黒、こちらのクロス集計について、全体有効回答数に合致しないことがありますと書いてある部分の次の文章を読み上げます。「なお、クロス集計とは複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにする為の集計方法です。」と記載をしております。

ですので、今回のコメントとしましては、縦の軸で分析をして、全体と比べて特徴があるものについて、記載しているということです。その分析を立てて行っているものについてが、必ずしもその障害の区分の中で最も高い項目ではないと、分析のコメントをしています。ただ、特に記載したいことについて、当事者の方についてはあると思いますので、変更については行っていきたいと考えております。

(会長)

皆さんからご意見いただければと思いますけれども、私としては名豊さんにアンケート調査に基づく一貫した書き方ということで統一して頂き、その上で、これをベースにさらに細かいことについては、先程、委員から出たように、名豊さんに細かいデータを出してくるということで、これをもとに障害者計画を作っていくことを考えると、今の段階では名豊さんのルールに則って変えてもらうのが、今回の段階ではいいのかなと思っています。そうしないとここでやっぱりこういう風にしたほうが分かりやすいのではないかな等を言い始めるとキリが無くなるのでは、と思います。そのことも含めて、すみません。時間が伸ばしても5分ぐらいしかありません。準備があるので。いかがでしょうか。

(委員)

些細なことですが、25頁の1行目。「障害種別にみると」という表現について、「障害種別で見ると」のほうが自然な言葉のような気がします。これはたくさん出てくるのですが、「障害者別で見ると」でも、もちろん通じますし、私の日本語力の問題なのかなとも思いますが、日常会話的には「障害種別で見ると」という表現をするのかなと思いました。

(会長)

恐らく、これについては正解が無いと思います。小説家でいえば文体みたいなものなので。これもまた、保健福祉総合計画全体として合冊になるので、その表記との統一ということで、事務局と名豊さん、正副会長で預らせて頂くということでよろしいでしょうか。では、そのようにさせていただきます。ほぼ時間になりました。言いたいこと山ほどありますが。これでこの議論が終わるのではなく、これをベースにして細かいデータを名豊さんに出してもらいながら、令和5年度に障害者計画を作る素材にして行くということです。これで了解ではなく、仕方ないと思っていただくしかないかなと思います。ここから先、正副会長、事務局、名豊さんで預らせていただいて、他の計画との整合性をきちんととるという前提で、この先進めさせて頂ければと思います。それでは今言った前提で、自立支援協議会としては報告書を確定させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。そうしましたら、その他について事務局からお願いいたします。

(事務局)

その他につきまして、今回は事務局で用意したものはございません。

(会長)

そうしましたら、次回の開催日程をお願いいたします。

(事務局)

今年度としては本日が最後になります。次回は令和5年度第1回目の専門部会として、令和5年5月10日水曜日午後5時から開始します。会場は今の時点の予定になりますが、生涯発達支援部会が801会議室。相談支援部会が本庁暫定庁舎第一会議室。社会参加・就労支援部会が本庁暫定庁舎第三会議室を予定しております。日が近づきましたら、開催通知等を送らせていただきます。次回の予定につきましては以上です。

(会長)

ありがとうございます。そうしましたら、これで自立支援協議会を終了させていただきますが、この後の差別解消委員会まで少し時間がありますので、一旦この場を閉じさせていただきますが、情報交換、意見交換をしていただくことは構わないです。それでは終わらせていただきます。どうもありがとうございました。